デジタルアーカイブの歴史と課題：知識基盤社会を支える「知のサイクル」の探求

「知識基盤社会」とは、「新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会」である。

本プレゼンテーションでは、日本のデジタルアーカイブの歩みを岐阜女子大学の先進的な取り組みをケースに紐解き、未来への課題を探る。

NotebookLM

「デジタルアーカイブ」の誕生と定義

1994年

東京大学名誉教授、月尾嘉男氏が和製英語「デジタルアーカイブ」を提唱。

1996年

デジタルアーカイブ推進協議会（JDAA）が設立。構想が明文化される。

JDAAによる定義

「有形・無形の文化遺産をデジタル映像の形で記録し、その情報をデータベース化して保管し、随時閲覧・鑑賞、情報ネットワークを利用して情報発信」すること。

NotebookLM

世界の潮流と日本の現在地：デジタルアーカイブの挑戦

2001年の「e-Japan重点計画」以降、「国立国会図書館サーチ」や「文化遺産オンライン」など多くのアーカイブが構築された。

課題

国際的な取り組みと比較すると、日本の施策は「後れを取っている」と言わざるを得ない状況にある。

NotebookLM

政策の転換点：2017年、国が示した新たな方向性

2017年4月、関係省庁等連絡会が発表した2つの報告書が、日本のデジタルアーカイブ戦略の潮目を変えた。

- 『我が国におけるデジタルアーカイブ推進の方向性』
- 『デジタルアーカイブの構築・共有・活用ガイドライン』

報告書では、これまでの「構築」や「保存」に加え、新たなキーワードが頻繁に使用された。

活用　共有　循環

NotebookLM

パイオニアの登場：岐阜女子大学が描く「知の創造サイクル」

University Mission

地域社会で主体的に活動できる人材を育成するため、地域資源を有効活用し、新たな知を創造する「知の創造サイクル」を教育の中核に据える。

The Cycle's Purpose

- 地域の未解決な課題に主体的に向き合う。
- 地域課題の解決を通じて地方創生イノベーションを実現する。
- 地域の伝統産業振興や観光資源の発掘に貢献する。

NotebookLM

新たな専門職の創出：「デジタルアーキビスト」養成という先駆的取り組み

国内初の「デジタルアーキビスト」養成カリキュラムを開発・実践。

文部科学省による継続的支援（MEXT Support Timeline）

2004–2006
（平成16-18年度）

現代的教育ニーズ取組支援プログラム
（現代GP）
学部生向けカリキュラム開発

2007–2009
（平成19-21年度）

社会人の学び直しニーズ
対応教育推進事業
社会人向け応用プログラム

2008–2010
（平成20-22年度）

組織的な大学院教育改革推進
プログラム（大学院GP）
大学院生向け上級プログラム

NotebookLM

構想から社会実装へ：国家資格化と全国的な需要の高まり

Impact 1: 資格認定機関の設立

関係者からの強い要望を受け、2006年（平成18年）に設立。多数の有資格者を輩出。

Impact 2: 社会的需要の増大

- 全国の地方自治体において、デジタルアーカイブ事業の入札仕様書で「有資格者」を前提とするケースが増加。
- 資格希望者は平成26年度（2014年）から大幅に増加し、社会的な価値が増大していることを示している。

NotebookLM

20年の研究と実践が築いた「知」の集積

20年	約20万件	7年間
2000年から続く デジタルアーカイブ研究の歴史	整理・保管・流通させてきた 地域文化資源の数	文部科学省から受けた 継続的な支援期間

Scope of Archived Resources

文化活動　観光　衣食住　産業　教育

NotebookLM

日本を代表する「知の拠点」との連携

長年の実績が評価され、2017年5月に発足した「デジタルアーカイブ学会」において、東海地区唯一の中心的なメンバー校となる。

主な設立メンバー（Co-founding Members）

NotebookLM

次のステージへ：「知の増殖型サイクル」による課題解決

単なる記録・保存を超え、大学の知見と地域の課題を結びつけ、新たな価値を創造するモデルへ。

Source Han Sans JP Regular

Outcome

Source Han Serif JP SemiBold

地域の発展に直接寄与する課題解決手法を確立し、大学のブランディングを強化する。

NotebookLM

大学のビジョンと国家戦略の共鳴

National Momentum

Source Han Sans JP Regular

2015年: デジタルアーカイブサミットが日本で開催。文化資源戦略会議が「アーカイブ立国宣言」を発表。

2020年目標: 2,000万点のデジタルアーカイブ構築を目指す基本計画が立案される。

ビジョンの一致

University's Model

Source Han Serif JP SemiBold

岐阜女子大学のモデルは、国が目指す「活用・共有・循環」を地域レベルで体現する先進的なものである。

NotebookLM

未来へのインパクト：教育の革新と新産業の創出

教育分野での活用

- ICTを活用した教育の進展。
- 一人一台のタブレットPCや電子黒板の導入。
- 「デジタル教科書」など、教育用デジタルアーカイブの需要が急増。

経済・産業への波及

- デジタルアーカイブの開発・運用そのものが「新しい産業」として発展する可能性。
- 博物館、図書館、公文書館等のデジタル化ニーズも高まり、他分野との連携が加速。

NotebookLM

まとめ：知識基盤社会を拓くための3つの鍵

課題

「知識基盤社会」の実現には、単に情報を蓄積するだけでなく、それを活用し循環させる仕組みが不可欠である。

モデル

岐阜女子大学の「知の創造サイクル」および「知の増殖型サイクル」は、地域課題解決と知の再生産を両立する実証済みモデルである。

専門家

「デジタルアーキビスト」という専門人材の育成こそが、持続可能なデジタルアーカイブ戦略の根幹をなす。

NotebookLM

次の対話へ：私たちの課題

【研究課題】
デジタルアーカイブの歴史をまとめて、
何が変化して何が課題になっているかを
話し合ってみなさい。

NotebookLM